



# 四小だより



## 連雀学園三鷹市立第四小学校



ホームページ 四小 <http://www.mitaka-schools.jp/yonsyo-es/index.html>  
 夢支援ネットワーク <http://miku.info>  
 四小メールアドレス [04-no4@ms.mitaka.ed.jp](mailto:04-no4@ms.mitaka.ed.jp)  
 四小教育相談室（直通） 0422-48-9102

### 3月号

### 地域の子どもを地域と共に育てる

校長 佐藤 勇人



▲翌日まで体育館の屋根には雪が積もっていました。

先月の5日から6日にかけて、東京にも久しぶりの積雪がありました。6日の朝、校庭は真っ白になっていました。ウィンドバンドの子供たちが朝練習で早くから入舎するので、滑らないよう、門から昇降口までの雪かきを始めました。西門から西昇降口までの通路を確保した後に、東側に行きました。東門の前では、ご近所にお住まいの女性と青い服を着た近くのコンビニエンスストアにお勤めの男性が道路の雪かきをしていました。挨拶をして、東門の前の雪かきを始めると、その男性と一緒に門の前の雪かきを始めました。私が、門の前を終えて東昇降口までの通路を確保しようと中へ移動すると、その男性も入ってきました。「もう学校の敷地内ですので大丈夫です。ありがとうございます。」と、遠慮しましたが、「いやいや、たいへんですよ。」と、ずんずん雪かきを進めてくださいました。しまいには、現在の2年生の教室前までどんどん進み、「通り

の雪かきだけとっていたんだけど、つつい。」と、何事もなかったかのように、お店に戻って行かれました。約30分の出来事でしたが、私は、とても温かい気持ちになり、この日一日をととても幸せな気持ちで過ごすことができました。

近年では、SDGs（持続可能な開発目標）や企業の社会的な責任などの観点から、社会貢献活動に力を入れる企業が増えています。企業は社会的に大きな影響を与える存在であるので、影響に見合った社会的な責任をもつという考え方から、納税や雇用の創出による地域貢献だけではなく、より積極的な地域貢献を求められているからです。また、一方で、日本には、「売り手によし、買い手によし、世間によし」という「三方よし」という経営哲学も昔からあります。「自らの利益のみを追求することをよしとせず、社会の幸せを願う」というものです。「責任」や「影響」からの、言わば義務的な貢献だけではなく、社会の幸せを願う精神が、日本の企業の社会貢献のバックボーンにはあるようです。

雪かきをしてくださった男性が、「企業による地域貢献」をどれだけ意識したかは、私にはわかりません。しかし、その男性の行為は「お店の売り上げやお客さんのため」を超えた行動であり、「みんなの幸せ」につながる温かさのこもったものだと、私は思わずにはいられませんでした。

これを、学校に単純に当てはめることはできませんが、市立の学校の教育活動は、地域の子どもを育てるためのものですので、地域社会に貢献しなくてはならない営みです。ただ、単なる義務として行うのではなく、より積極的な地域貢献の意識をもっていくことが必要であると、私は思います。三鷹市では、学校教育の場において「個人と社会の幸せ（ウェルビーイング）の実現」「一人一人を大切にする教育の実現」「地域の共有地「コモンズ」としての学校、学校3部制の推進」を重点とし、「地域とともに、協働する教育を進める」ことを目標の一つに掲げています。第四小学校は来年度も、「自分で自分を伸ばし、みんなが楽しい生活を築く『夢育の学び舎』」を、目指す学校の姿として掲げ、学力・心力・体力の調和の取れた児童を児童同士や保護者・地域との関わりの中で育成していきます。地域の子どもたちを地域に貢献する人材として、保護者・地域の方と共に育てていくのだという意識をより強くもち、学校を核としてそこに集う人々が幸せを感じられるように努めていきたいと考えます。

令和5年度もあと1月となりました。今年度も本校の教育活動に、ご理解ご協力いただき、ありがとうございました。令和6年度も、引き続き、よろしく願いいたします。

## 「分ち合おう♪音楽の楽しさ」

### ～高学年の合奏活動を通して～

5年生は今年度、学習発表会に向けて、「周りの音をよく聴くこと」や「指揮を見て、合わせて演奏すること」を目標に練習を積み重ねてきました。毎回振り返りを行い、より高みを目指して頑張る5年生の姿にとっても感心しました。11月の本番を終えた5年生の、達成感に満ちた表情がとても印象的で、嬉しかったです。6年生は現在、3月の6年生を送る会に向けて、練習が始まりました。授業だけでなく、休み時間も率先して練習し、互いに教え合ったり、共に合わせたりしながら音楽をつくっていく様子を見ることができました。自分が弾いている楽器の音と、周りの楽器の音とが重なり合い、良い響きに気付いた瞬間、人は幸せを感じることができます。子どもたちが各パートの役割を理解し、進んで良い響きを追求することで、次第に集団としてのまとまりが「音」となって表れてくるようになります。音楽の良さ、響きの美しさ、一つの楽曲をみんなで作り上げていくことの楽しさを共有できることこそ、音楽の最大の魅力であると改めて感じることができました。さて、いよいよ3月。卒業の日まで、子どもたちと音楽の楽しさを分かち合っていきたいと思います。

音楽科

## おはなしの会

今年度はコロナ禍も明け、図書館を使ってあずきの会の方々から「おはなしの会」を開いていました。1・2年生は学期に1回ずつ、3～6年生は1年に1回、様々な本を読み聞かせやブックトーク、ストーリーテリングなどで紹介していただきました。ろうそくに火を灯しながら「ろうそくろうそくついとくれ。お話しろうそくついとくれ。」をみんなで唱え、本の世界へと浸れる1時間を過ごすことができました。

目をキラキラさせて、本の紹介に集中する姿が見られ、よい機会をつくってくださったあずきの会の皆様には感謝いたします。

たくさんの本に触れあえる「おはなしの会」を通して、またたくさん本に触れ合える時間を大切にしていきたいと思います。



図書館

## 夢に向かって

夢育では「夢に向かって」というキャリアにつながる学習をしています。社会の中で生きている大人が、どのようなことを考え、どのように生きてきたか、また、職業をもつ人々の思いや苦勞を知り、自分が将来どのように生きるべきか、そのためには何をすべきなのかを考える授業です。

### 「働くとはどんなことなのだろうか。」

この問いについて、自分で考えたり、友達や様々な立場の方に話を聞いたりしながら、自分なりの答えを探しています。

2/27には、自分の興味のある職業の方々に直接お話を伺う、職場訪問に行ってきました。子どもたちは職場を案内してもらいながら、働く人に直に質問などをしてコミュニケーションをとり、働くことについて見識を広めていきました。

卒業という節目をまもなく迎える6年生にとって、この学習が将来の自分の生き方にとってよい学びになるように今後も進めていきます。

6年 担任

## 1年間を振り返って

生活指導に関して振り返ってみると、子どもたちの成長がたくさん見られたすてきな1年間だったように感じます。この理由は、3つあります。まず、「挨拶」です。朝はもちろん、廊下や階段ですれ違ったときにも「おはようございます!」「こんにちは!」と元気よく挨拶をしてくれるので、気持ちがほっこりすることがいっぱいありました。次に、「すーびた」です。昇降口を通るとき、「靴がそろっていることは、こんなに気持ちいいことなんだ」と感動するほどでした。有名な言葉であるように、「『はきものをそろえると、心もそろおう』ということだ」と実感しました。最後に、「相手を大切にする」です。困っていることがあったら手助けしたり、相手のことを考えて声を掛けたりする場面をよく見ました。「ありがとう」という言葉もたくさん聞きました。本当にすてきなことだと思います。「相手のことを考える」ということは簡単なようで、実はとても難しいこと。だからこそ、これからもこの意識を大切に、もっとみんなが過ごしやすい四小になっていくといいなと思っています。

このように、四小にはすてきなところがたくさんあります。これは、子どもたちの努力はもちろんですが、家庭、地域、学校で連携しながら子どもたちを見守ることができている証なのかもしれません。このたくさんすてきなところが、新たな四小の伝統として引き継がれていくことを願っています。

生活指導主任